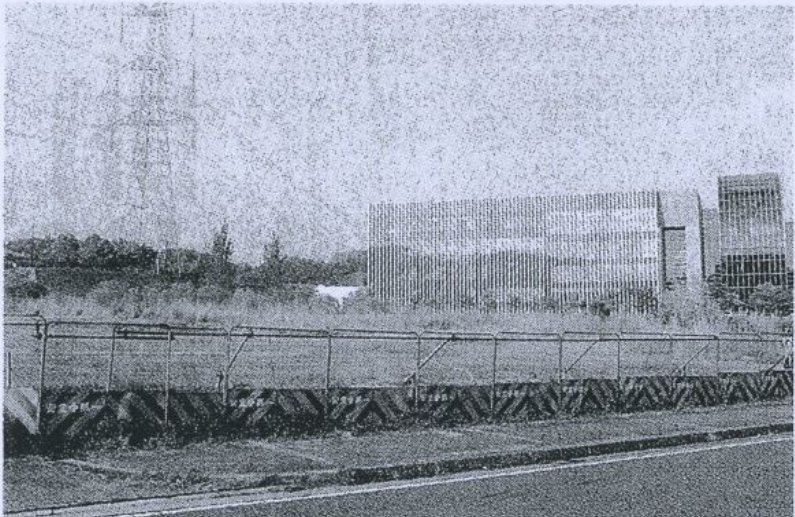


学研都市活性化に期待

奈良「高山第2工区」再出発



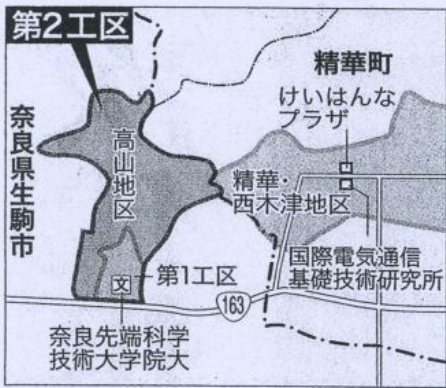
高山地区第2工区予定地の山林(左奥)を第1工区から望む＝奈良県生駒市高山町

関西学研都市の中心部「精華・西木津地区」(精華町、木津川市)に隣接する奈良県生駒市の「高山地区第2工区」の行方が注目を集めている。一時、計画が

第2工区は、奈良先端 科学技術大学院大が立地 する第1工区(約45㌔) の北側約288㌔。19 93年に地元の要望でU Rが住宅地開発を計画し

精華・西木津 共同研究で成果を

た。URを含めた3者で プロジェクトチームをつ くり議論を進めてきた。 今年2月までに3者が 大筋で合意した見直し案 では、中心部の約81㌔で 里山を保全し、住宅用地 (約54㌔)は南西部に設



大学誘致など課題

けた。約39㌔の学術研究 交流用地は、精華・西 木津地区の精華町光台に 隣接する南東部に集約 する。大学や研究施設を 誘致し、京都府内の研究 機関や奈良先端大など と連携可能な条件を整え る。

それだけに両地区の相 乗効果への期待は強い。 府文化学術研究都市推進 室の中村重夫室長は「第 2工区は学研都市全体の 魅力を高める重要な地 域。実現すれば京都府域 との共同研究などの成果 が望める」と話す。

高山第1工区を含め、 学研都市では長引く不況 で企業立地が停滞してい る。けいはんなプラザ(精 華町光台)を運営する株 式会社けいはんなの栗山 和郎社長は「両地区がつ ながれば、セットで企業 誘致ができる。プラザも 大阪府内の企業に近い存 在となり、入居増も期待 できる」と注目する。

タイムリー やましろ